

長野県産業廃棄物実態調査（令和 5 年度実績） 概要版

1 調査の目的

本調査は、5 年ごとに実施しているもので、今回、令和 5 年度の長野県内における産業廃棄物の発生・排出・再生利用・処理等の実態を把握するとともに、将来予測を行うことにより、発生抑制、減量化、資源化等の施策の策定に寄与することを目的に実施した。

2 調査の概要

(1) 調査対象期間

令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までの 1 年間

(2) 調査対象業種

調査対象業種は、「日本標準産業分類（総務省）」の業種区分を基に、事業所母集団データベースから、従業者数が 30 人以上（建設業は資本金 3 千万円以上）の事業所を全数抽出し、5～30 人未満（建設業は資本金 1 千万円～3 千万円未満）の事業所を無作為で抽出した。なお、鉱業、電気・水道業及び病院は全数対象とした。

(3) 調査対象廃棄物

調査対象廃棄物は、以下のとおり廃棄物処理法及び同法施行令に規定する産業廃棄物（特別管理産業廃棄物を含む）とした。

- ・燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、鉱さい、がれき類等。

(4) 調査の方法

調査対象事業所に対するアンケート調査により得られた産業廃棄物の発生及び処理状況に関する回答内容と、産業廃棄物の発生量に関連した指標（製造品出荷額等）を基に、県内の産業廃棄物の総排出量等を推計した。

（アンケート調査の状況）

抽出事業所数	アンケート 回収事業所数	回収率（％）
4,810	2,888	60.0

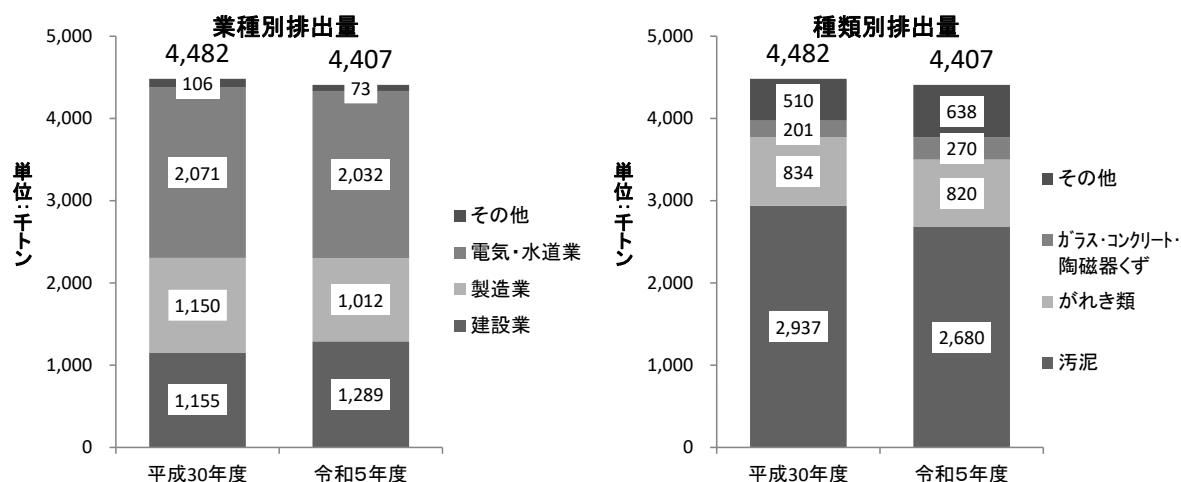
3 産業廃棄物の現状

(1) 産業廃棄物の排出状況

令和5年度の1年間に県内から排出された産業廃棄物量は4,407千トンと推計された。平成30年度排出量の4,482千トンと比較すると、この5年間で2%減少している。

業種別では、製造業の減幅が大きくなっている。産業廃棄物の種類別では汚泥が大幅に減少している。

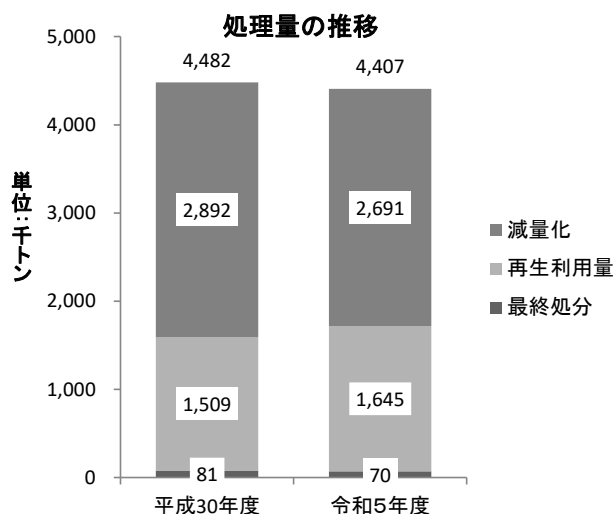
排出量の推移



(2) 産業廃棄物の処理状況

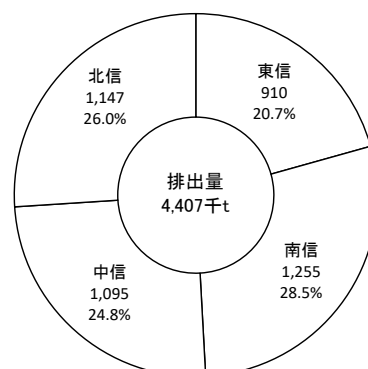
令和5年度の排出量4,407千トンのうち、2,691千トン(61.1%)は排出事業者や処理業者によって減量化が行われ、1,645千トン(37.3%)が再生利用されており、70千トン(1.6%)が埋立処分されている。

この5年間で排出量に対する減量化・再生利用量の割合は、98.2%から98.4%と0.2%増加し、最終処分量の割合は、1.8%から1.6%と0.2%の減少となっている。



(3) 地域別の排出量

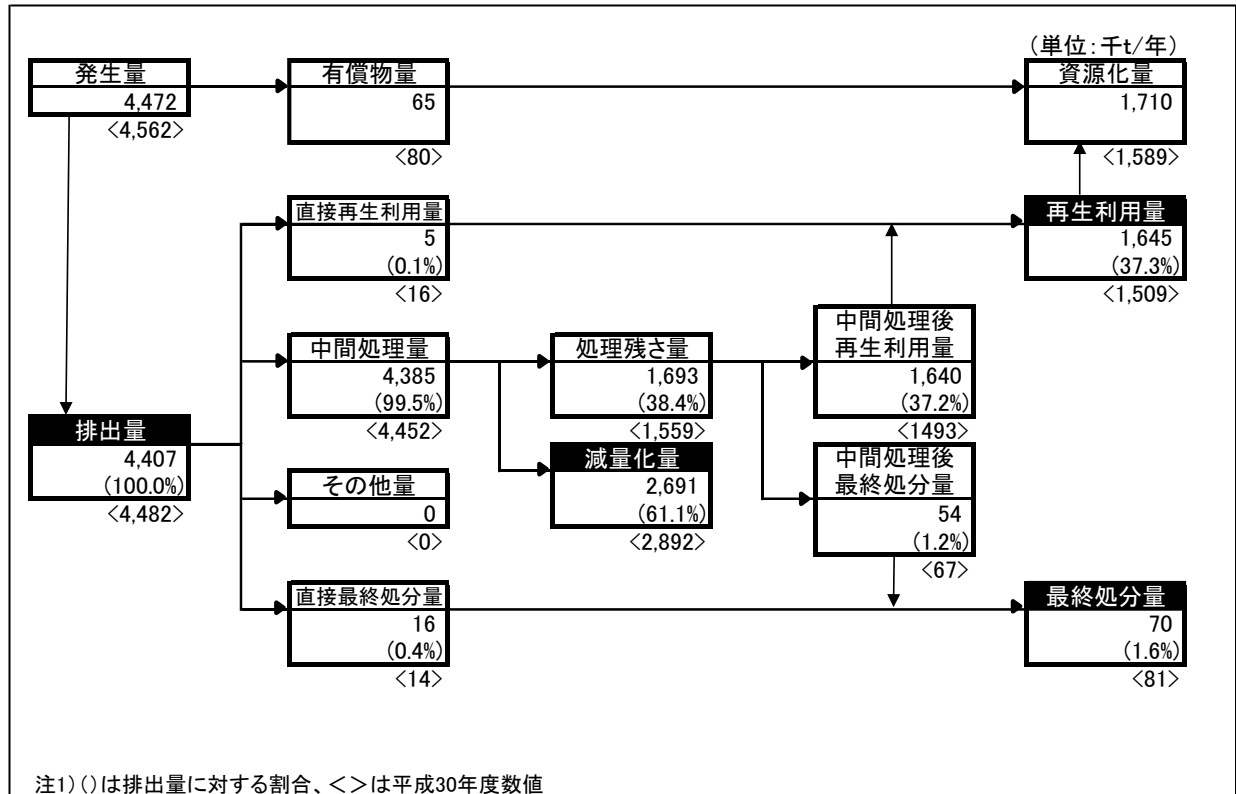
排出量を地域別にみると南信地域が1,255千トン(排出量の28.5%)で最も多く、次いで、北信地域が1,147千トン(26.0%)、中信地域が1,095千トン(24.8%)、東信地域が910千トン(20.7%)となっている。



(4) 産業廃棄物の流れ

令和5年度の1年間に県内で発生した産業廃棄物の量は4,472千トンであり、有償物量の65千トンを除いた排出量は4,407千トンとなっている。

排出量のうち、脱水や焼却など中間処理された量は4,385千トン(排出量の99.5%)、中間処理を経ず直接再生利用された量は5千トン(0.1%)、直接最終処分された量は16千トン(0.4%)等となっている。また、減量化量は2,691千トン(61.1%)で、再生利用量は1,645千トン(37.3%)、最終処分量は70千トン(1.6%)となっている。



(5) 再生利用量

再生利用量は1,645千トンとなっており、排出量の37.3%となっている。

種類別にみると、がれき類が803千トン(再生利用量の48.8%)で最も多く、次いで、ガラス・コンクリート・陶磁器くずが253千トン(15.4%)、木くずが207千トン(12.6%)等となっている。

(6) 減量化量

減量化量は2,691千トンとなっており、排出量の61.1%となっている。

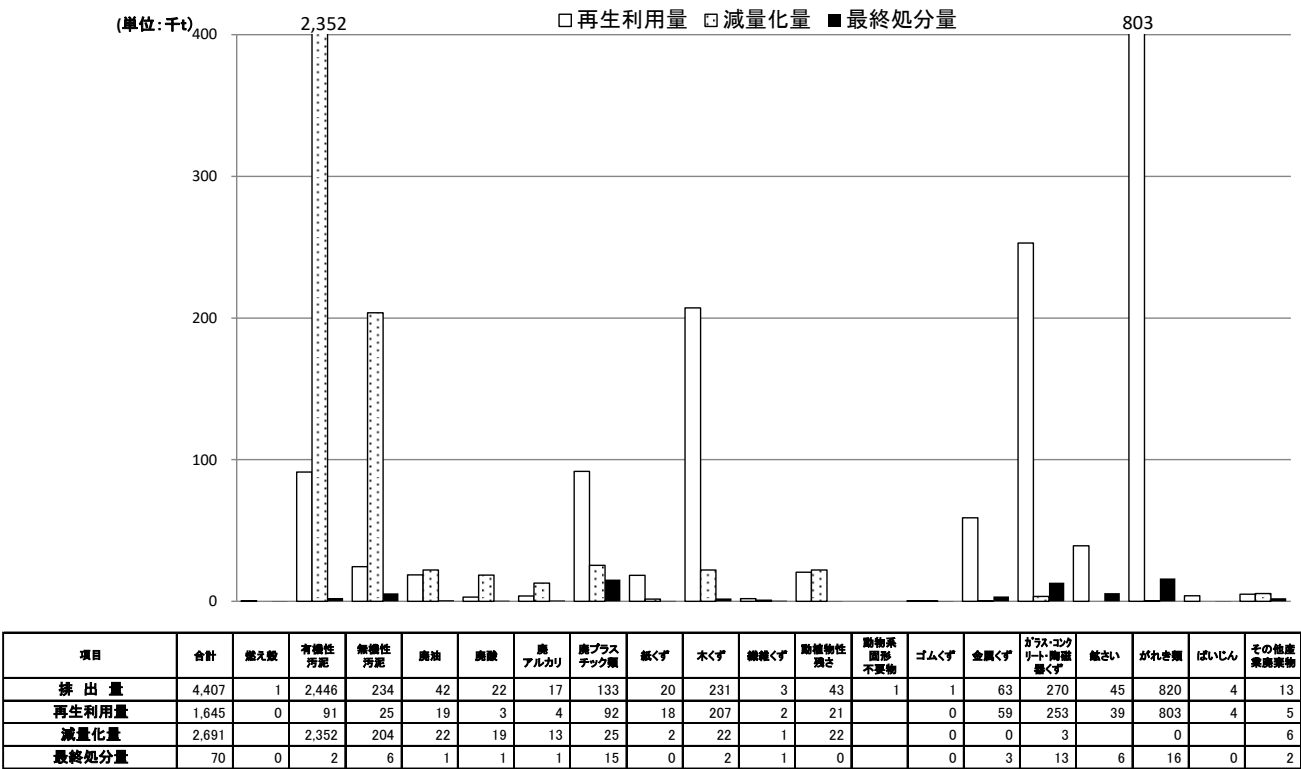
種類別にみると、有機性汚泥が2,352千トン(減量化量の87.4%)で最も多く、次いで、無機性汚泥が294千トン(7.6%)、動植物性残さが25千トン(0.9%)等となっている。

(7) 最終処分量

最終処分量は 70 千トンとなっており、排出量の 1.6% となっている。

種類別にみると、がれき類が 16 千トン（最終処分量の 23.1%）で最も多く、次いで、廃プラスチック類が 15 千トン（22.0%）、ガラス・コンクリート・陶磁器くずが 13 千トン（18.9%）等となっている。

産業廃棄物の種類別の再生利用量、減量化量、最終処分量



4 産業廃棄物の将来の見込み

排出量等の将来予測は、排出原単位及び処理形態も将来にわたり一定であると仮定して、各種経済指標、現時点の経済情勢等を考慮し、その伸び率で排出及び処理状況を推定した。

排出量全体では、令和 12 年度までは増加傾向で推移し、その後令和 17 年度にかけて減少する推移が予測される。種類別にみると、汚泥は減少傾向、がれき類とガラス・コンクリート・陶磁器くずは増加傾向となっている。

排出量の将来の見込み

